

第31期 (2011年6月期)

第3四半期連結業績説明資料

2011年 5月

株式会社

ドンキホーテ

Don Quijote Co.,Ltd.

専務取締役 CFO 兼 CCO 高橋 光夫

〒153-0042 東京都目黒区青葉台2-19-10

TEL 03-5725-7588 FAX 03-5725-7024

<http://www.donki.com>

e-mail : takahashi@donki.co.jp

このたびの「東日本大震災」により被災された皆さまに
謹んでお見舞い申し上げます
被災地の一日も早い復旧と復興を心よりお祈り申し上げます



2011年6月期 3Q 決算概況

- ✓決算業績概況
- ✓事業別業績概況
- ✓主な資産、負債、純資産の状況
- ✓四半期業績推移
- ✓セグメント情報
- ✓キャッシュフロー、設備投資の状況

ドン・キホーテグループトピックス

- ✓月次販売の状況
- ✓出店状況
- ✓震災関連情報
- ✓New MEGAデビュー
- ✓情熱価格

2011期6月期 通期業績予想

本資料における記載金額は、単位未満を四捨五入して表示しております。

エグゼクティブ・サマリー

<はじめに>・・・いつもと同じように過ごしていた日常や時間を破壊し不規則にした事実は、あらゆる場面で甚大な被害と悪影響を残し、私たちを取り巻く消費環境も激変しました。本資料は主として震災前までの状況を記しておりますが、震災前後の状況については19～20頁で説明しております。

1. 3Q累計連結業績概況

お客さまニーズを先取りした施策とコストマネジメントの進化で収益力拡大！

- ▶円高の進行やデフレ経済が慢性化する状況下において、景況感の改善傾向を先取りした営業施策を採ることにより、客層の拡がりと共にお客さま支持率が安定して推移。
- ▶地域特性に応じた商品ポートフォリオの組み替えを、柔軟かつ積極的に推進したことから、当社グループの独自性がますます発揮され、DQ既存店は3.0%増収。また、プライベートブランド商品の販売促進は、品揃えの多様性と利益率改善に貢献。
- ▶DQが実践する「コストコントロール」の仕組みは、子会社収益力の強化に寄与するも、今後はマーケットシェアの拡大が課題。
- ▶設備投資及び社債償還などに係る資金需要については、事前のご案内通りに「デット調達（銀行借り入れ・社債発行）」を実施済。
- ▶株フィデック（8423）を、当3Qより新規に連結（BSのみ、PLは4Q以降）。
- ▶これらのことから、3Q累計連結業績は、売上高3,825億円（前期比2.7%増）、営業利益202億円（同22.0%増）、経常利益200億円（同20.6%増）と増収増益を達成し、通期予想に対しても順調な進捗状況。
なお、当期純利益は「資産除去債務（6.8億円）」及び「災害損失（18.4億円）」などの計上があったものの、これらを吸収した上で101億円（同7.2%増）と増益で着地。

2. 通期業績見通し

「災害損失」計上も、従来予想に変更なく「増収増益決算」を見込む！

「東日本大震災」の発生に伴う営業施策の変更や予想外の「災害損失」の計上があるものの、通期業績の見通しは、売上高5,000億円（前期比2.5%増）、営業利益245億円（同16.3%増）、経常利益235億円（同11.3%増）及び当期純利益125億円（同22.1%増）と、2011年2月4日に修正した予想に変更はありません。



3Q累計業績サマリー



【期間：2010年7月1日～2011年3月31日】

(単位：百万円)

連結実績	当3Q実績				前3Q実績		通期公表予想 ※1	
	金額	百分比	前期比	進捗率※3	金額	百分比	金額	百分比
売上高	382,486	100.0%	102.7%	76.5%	372,271	100.0%	500,000	100.0%
売上総利益	97,296	25.4%	104.1%	76.0%	93,507	25.1%	128,000	25.6%
販管費	77,072	20.1%	100.2%	74.5%	76,930	20.6%	103,500	20.7%
営業利益	20,224	5.3%	122.0%	82.5%	16,577	4.5%	24,500	4.9%
経常利益	20,045	5.2%	120.6%	85.3%	16,620	4.5%	23,500	4.7%
当期純利益	10,072	2.6%	107.2%	80.6%	9,392	2.5%	12,500	2.5%
1株利益	134.40円		99.3%	82.6%	135.33円		162.65円	

個別実績	当3Q実績				前3Q実績		(参考予想) ※2	
	金額	百分比	前期比	進捗率※3	金額	百分比	金額	百分比
売上高	260,872	100.0%	105.2%	76.1%	248,000	100.0%	343,000	100.0%
売上総利益	65,239	25.0%	105.3%	75.9%	61,972	25.0%	86,000	25.1%
販管費	49,296	18.9%	101.3%	74.1%	48,640	19.6%	66,500	19.4%
営業利益	15,943	6.1%	119.6%	81.8%	13,332	5.4%	19,500	5.7%
経常利益	15,721	6.0%	120.6%	83.6%	13,032	5.3%	18,800	5.5%

※1. 業績予想は2011年2月4日に、当初予想（売上高5,100億円、営業利益230億円、経常利益220億円、純利益116億円）を修正したものであります。

※2. 当社は個別業績予想を開示しておりませんが、連結業績予想の前提となる予想を参考予想として記載しております。

※3. 進捗率は通期予想に対する進行割合を表しております。

3Q累計連結業績概況コメント

▶ 連結売上高：3,825億円（前期比2.7%増）

日用雑貨品が安定的な支持を得ているなかで、季節商品、ライフスタイル型商品及びプライベートブランド商品などの販売促進策が奏功し、客層拡大を実感。さらに地方展開店は、地域の生活基盤として着実に溶け込み、好調を継続。なお、DQ既存店は女性客を中心に新規客を獲得し3.0%増と引き続き伸長。長崎屋も3.5%増で推移。

▶ 当3Q末店舗数：223店（前期末220店）

新規出店9店（DQ4店、MEGA1店、ドイト3店、WR1店）、閉鎖6店（DQ1店、ピカソ1店、長崎屋2店、ハワイ・カイルア店、WR1店）。長崎屋のMEGA転換は7店。

▶ 連結売上総利益：973億円、同率：25.4%（前期比0.3pt改善）

生活必需品については、根深く残るデフレ環境を意識した価格施策を徹底する一方で、景況感の改善状況を先取りした中高価格帯商品の充実を図るなどしてバランスを取る。消費を取り巻く景色が激変した「大震災」以降は、生活必需品ニーズが一気に高まったため、ディスカウント価格を維持してお客さま支持を高めるが、売上総利益率は0.3pt改善。

▶ 連結販管費：771億円（同0.2%増）、販管费率：20.1%（同0.5pt改善）

人時生産性を中心としたドンキ流オペレーション＝「コストコントロール・マネジメント」力が、グループ全社でますます進化し、店舗数増加に伴う地代家賃や猛暑影響に伴う水道光熱費などの増加額を吸収。

▶ 営業外収支戻：1.8億円のマイナス

受取利息4.2億円、負ののれん償却6.4億円/支払利息12.8億円、社債発行費3.9億円など。

▶ 特別損益戻：31.3億円のマイナス

収用補償金3.9億円/災害損失18.3億円、資産除去債務6.8億円、減損損失4.6億円など。



▶ これらのことから、営業利益202億円（同22.0%増）、経常利益200億円（同20.6%増）
当期純利益101億円（7.2%増）と大幅増益を達成し、いずれも3Q累計最高益を更新。

3Q累計連結業績概況

【期間：2010年7月1日～2011年3月31日】

(単位：百万円)

	当3Q (累計)		前3Q (累計)		前期比
	金額	百分比	金額	百分比	
売上高	382,486	100.0%	372,271	100.0%	102.7%
売上総利益	97,296	25.4%	93,507	25.1%	104.1%
販管費	77,072	20.1%	76,930	20.6%	100.2%
給与手当	26,027	6.8%	26,502	7.1%	98.2%
地代家賃	13,490	3.5%	13,172	3.5%	102.4%
支払手数料	9,041	2.4%	8,817	2.4%	102.5%
減価償却費	6,794	1.8%	6,701	1.8%	101.4%
その他	21,720	5.6%	21,738	5.8%	99.9%
営業利益	20,224	5.3%	16,577	4.5%	122.0%
経常利益	20,045	5.2%	16,620	4.5%	120.6%
当期純利益	10,072	2.6%	9,392	2.5%	107.2%
1株当たり純利益	134.40円		135.33円		99.3%

3Q累計事業別業績概況コメント

▶リテール事業3,679億円（前期比3.1%増）

* 「家電製品」 428億円（同6.6%増）

大型家電は政策効果による特需の発生を除くと苦戦が続くものの、中小型家電が貢献。

* 「日用雑貨品」 816億円（同7.7%増）

あると便利な商品群と価格訴求品の絶妙なバランスが、高い支持率を継続。

* 「食品」 1,072億円（同2.3%増）

こだわり商品やPB商品のラインナップ充実と併せた「質」転換策に一定の成果。

* 「時計・ファッション用品」 823億円（同1.8%減）

厳しさが残る環境下で、嗜好品については回復傾向も、衣料品の苦戦が響き微減収。

* 「スポーツ・レジャー用品」 224億円（同10.5%増）

季節特性やイベントの功罪に向き合いながら、新規需要を喚起。

* 「DIY用品」 126億円（同0.2%増）

2Qまでの天候不順による販売不振も3Q以降はプロユース商品を中心に持ち直し傾向。

* 「海外（ハワイ）」 116億円（同8.7%減）

「質」にこだわった「食品」は、惣菜を中心に安定した販売高推移で牽引。カイルア店は11年1月31日付で閉店。
なお、USドルでみた実質ベースは1.5%減。（ご参考：当3Q1USD=86.4円、前3Q= 93.2円）

▶テナント賃貸事業116億円（同2.5%減）

一部のテナント事業者の縮小や撤退及びMEGA店展開のための改装工事期間中の営業ロスなどで微減収。



3Q累計事業別業績概況

【期間：2010年7月1日～2011年3月31日】

(単位：百万円)

	当3Q (累計)		前3Q (累計)		前期比
	金額	構成比	金額	構成比	
リテール事業	367,920	96.2%	356,724	95.8%	103.1%
家電製品	42,814	11.2%	40,171	10.8%	106.6%
日用雑貨品	81,592	21.3%	75,751	20.4%	107.7%
食品	107,159	28.0%	104,762	28.1%	102.3%
時計・ファッション用品	82,322	21.5%	83,854	22.5%	98.2%
スポーツ・レジャー用品	22,386	5.9%	20,261	5.4%	110.5%
DIY用品	12,587	3.3%	12,564	3.4%	100.2%
海外	11,593	3.0%	12,695	3.4%	91.3%
その他商品	7,467	2.0%	6,666	1.8%	112.0%
テナント賃貸事業	11,614	3.0%	11,909	3.2%	97.5%
その他事業	2,952	0.8%	3,638	1.0%	81.1%
合計	382,486	100.0%	372,271	100.0%	102.7%

※当期より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「同 運用指針」を適用し、報告セグメントを「リテール事業」と「テナント賃貸事業」としております。なお、前期実績は当期基準に置き替えたものであります。

主な資産の状況

(単位：百万円)

	11年3月	10年6月	増減額
流動資産	148,904	128,198	20,706
現預金	51,590	41,734	9,856
商品	78,444	74,452	3,992
固定資産	209,326	173,831	35,495
建物等	57,062	49,961	7,101
土地	87,252	64,378	22,874
敷金保証金	33,070	33,674	▲604
資産合計	358,230	302,029	56,201

主な資産の状況

- 総資産：3,582億円**
 (前期末比562億円増)
 主な増加要因は、現預金99億円増、フィデック連結に伴う買取債権69億円増、販売好調及びMEGA店への業態転換に伴う棚卸資産40億円増、出店に伴う有形固定資産320億円増、無形固定資産38億円増など。
- 現預金：516億円** (同99億円増)
 当期における設備投資資金などを銀行借入金及び社債発行により調達したため。
- 商品：784億円** (同40億円増)
 既存店の好調な販売動向に対応した在庫構成とMEGA店が増加したため。
- 固定資産：2,093億円**
 (同355億円増)
 新規出店9店、業態転換7店以外に、次期以降の大型出店候補物件の獲得などにより、有形固定資産320億円、無形固定資産38億円が増加したため。

主な負債・純資産の状況

(単位：百万円)

	11年3月	10年6月	増減額
流動負債	120,869	122,005	▲1,136
買掛金	40,301	42,670	▲2,369
短期負債 ^{※1}	58,612	61,664	▲3,052
固定負債	113,856	73,264	40,592
社債等 ^{※2}	59,544	34,201	25,343
長期借入金	37,673	20,379	17,294
負債合計	234,725	195,269	39,456
純資産合計	123,505	106,760	16,745
負債・純資産合計	358,230	302,029	56,201

主な負債・純資産の状況

▶負債合計：2,347億円
(前期末比395億円増)

主な増加要因は、銀行借入金及び社債など有利子負債396億円増（CP含む短期性負債31億円減、長期性負債426億円増）、災害損失引当金14億円増、資産除去債務17億円増など。

2011年満期転換社債（前期末86億円）は、大半が株式に転換済（4,720千株、6.1%相当）。

▶有利子負債：1,558億円
(同396億円増、依存率43.5%)
(うちフィデック153億円)

▶D/Eレシオ：126.2%
(同17.3pt.増、フィデック除き115.0%)

▶純負債：1,042億円（同297億円増）

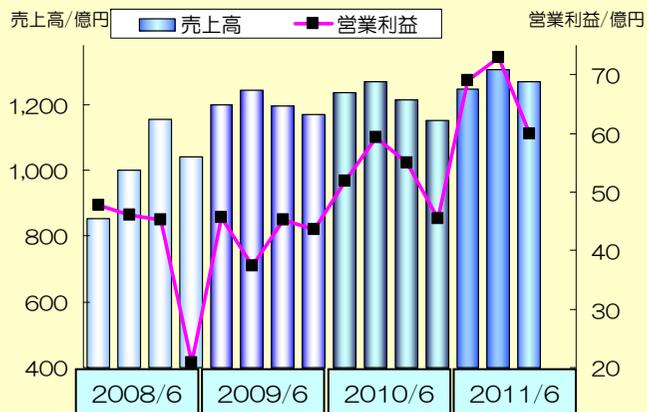
▶純資産：1,235億円
(同167億円増、自己資本比率33.8%)

※1 短期負債＝短期借入金、1年内返済予定の長期借入金、1年内償還予定の社債、同転換社債、コマーシャル・ペーパー

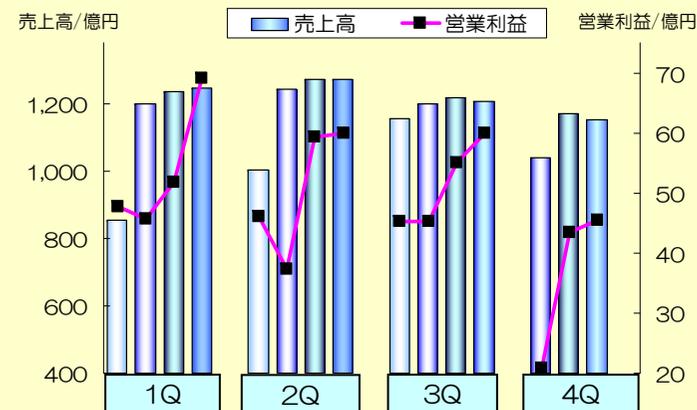
※2 社債等＝社債、転換社債

四半期業績推移

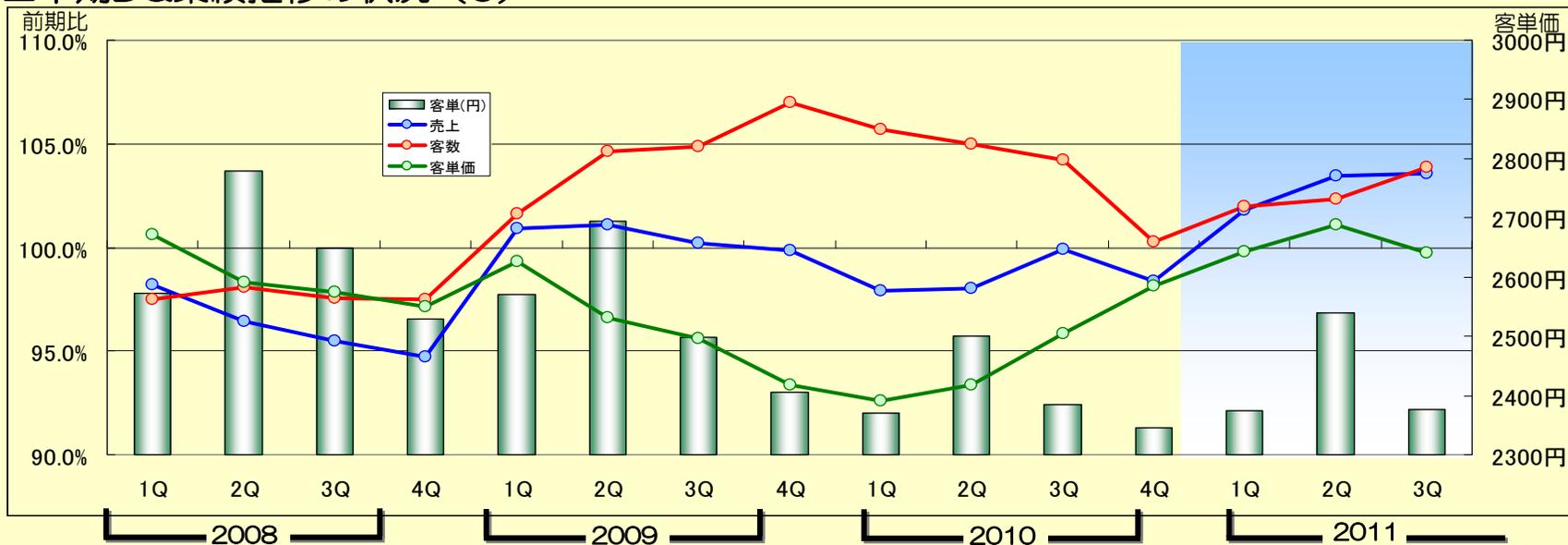
四半期連結業績推移の状況 (A)



四半期連結業績推移の状況 (B)



四半期DQ業績推移の状況 (C)



3Q累計セグメント情報

主力の「リテール事業」のセグメント利益は、微増収ながらも16.3%増の155億円。
「テナント賃貸事業」は微減収ながらも10.6%増の37億円といずれも大幅増益を達成！！

当3Q累計 セグメント概要【2010年7月1日～2011年3月31日】

(単位：百万円)

	リテール事業	テナント賃貸事業	その他事業	計	消去/全社	連結
外部売上高	367,920	11,614	2,952	382,486	—	382,486
内部取引等	3	1,798	708	2,509	▲2,509	—
計	367,923	13,412	3,660	384,995	▲2,509	382,486
営業利益	15,483	3,719	756	19,958	266	20,224

前3Q累計 セグメント概要【2009年7月1日～2010年3月31日】

(単位：百万円)

	ディスカウントストア事業	総合スーパー事業	テナント賃貸事業	その他事業	計	消去/全社	連結
外部売上高	315,143	43,854	11,909	1,365	372,271	—	372,271
内部取引等	203	3	1,657	673	2,536	(2,536)	—
計	315,346	43,857	13,566	2,038	374,807	(2,536)	372,271
営業利益	13,474	▲159	3,362	419	17,096	▲519	16,577

※当期より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「同 運用指針」を適用し、報告セグメントを「リテール事業」と「テナント賃貸事業」としております。12
Don Quijote Co., Ltd. 3Q results of FY2011.

キャッシュフロー&設備投資の状況

(単位：百万円)

	当3Q	前3Q	増減額
1.キャッシュフローの状況			
期首残高	38,911	42,040	▲3,129
営業活動CF	17,393	25,851	▲8,458
投資活動CF	▲45,485	▲23,463	▲22,022
財務活動CF	30,358	3,090	27,268
期中増減等	1,793	5,400	▲3,607
期末残高	40,704	47,440	▲6,736

2.設備投資の状況

設備投資額	35,236	17,416	17,820
キャッシュフロー	19,242 [※]	16,282	2,960
差引	▲15,994	▲1,134	▲14,860

キャッシュフロー

<営業CF>

税金等調整前純利益169億円、減価償却費71億円及び仕入債務26億円などが増加要因となる一方で、たな卸資産増加により45億円及び税金支払額71億円などが減少要因となったことから、174億円の収入

<投資CF>

出店に伴う有形固定資産の取得326億円、同無形固定資産の取得26億円及び連結子会社取得49億円などにより、455億円の支出

<財務CF>

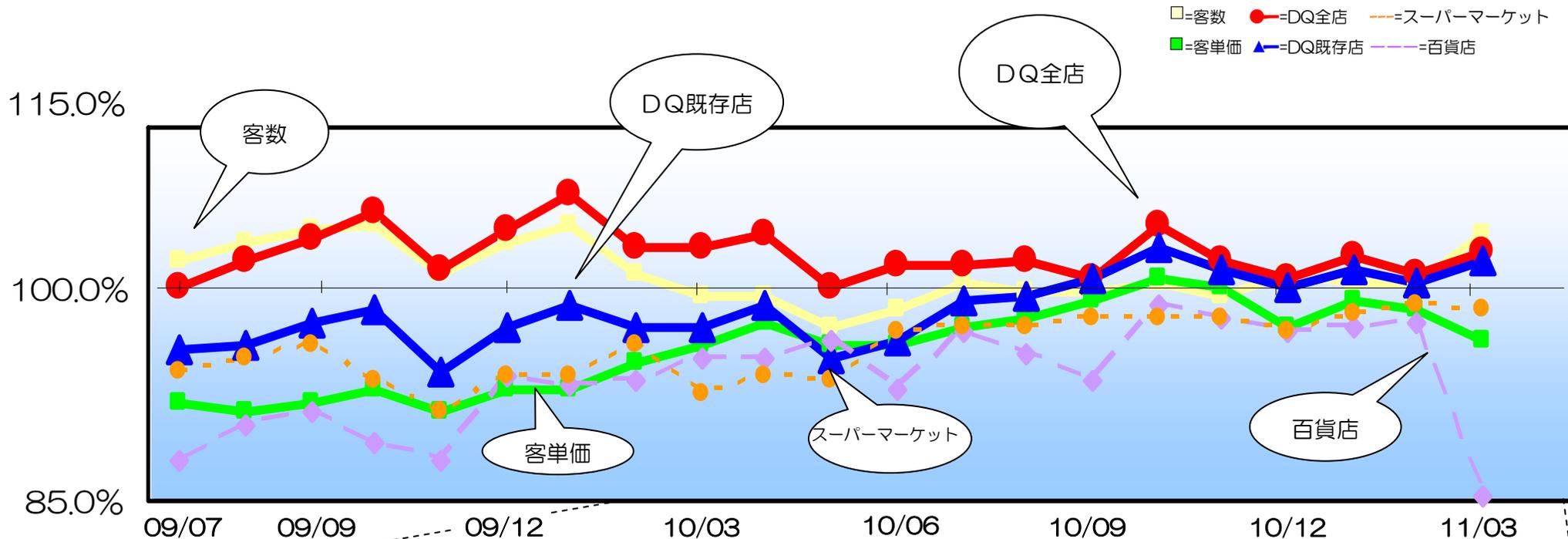
当期における設備投資、借入金返済及び社債償還に充当する必要資金は、デット調達（銀行借り入れ及び社債発行）を実施したことなどにより、304億円の収入

設備投資

当期に係る新規出店や業態転換以外に、次期以降の出店予定物件を獲得したことなどで352億円（DQ137億円、長崎屋32億円、ドイト21億円、日本商業施設161億円：ただし、敷金保証金回収などを考慮した純増加額は340億円）の支出。
キャッシュフロー192億円獲得

※キャッシュフロー＝純利益＋減価償却費＋特別損失－配当金

月次販売高の状況 (DQ)



既存店	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
売上高	100.8%	99.1%	98.8%	100.6%	96.5%	97.8%	101.2%	101.6%	102.8%	105.4%	103.5%	102.0%	103.7%	102.6%	104.2%	
・客数	107.2%	103.2%	101.3%	101.4%	98.9%	100.4%	102.4%	101.9%	101.7%	102.4%	101.3%	103.1%	102.6%	102.4%	106.5%	
・客単価	94.0%	96.0%	97.5%	99.2%	97.5%	97.4%	98.9%	99.7%	101.0%	103.0%	102.1%	99.0%	101.1%	100.2%	97.9%	
対象店舗数	146店	146店	149店	149店	149店	149店	153店	153店	151店	153店	153店	155店	155店	155店	156店	



品揃えと提案力を強化した「日用雑貨品」が客数増に寄与する一方で、
 中高価格帯の充実により「時計・ファッション用品」が回復基調も、「大震災」以降は激変。
 迅速な変化対応力を発揮しているDQ既存店は3.0%増（客数2.8%増、客単価0.2%増）で推移。

3Q連結業績概況

【期間：2011年1月1日～2011年3月31日】

(単位：百万円)

	当3Q		前3Q		前期比
	金額	百分比	金額	百分比	
売上高	127,005	100.0%	121,574	100.0%	104.5%
売上総利益	31,422	24.7%	30,702	25.3%	102.3%
販管費	25,391	20.0%	25,226	20.8%	100.7%
給与手当	8,802	6.9%	8,634	7.1%	101.9%
地代家賃	4,460	3.5%	4,432	3.7%	100.6%
支払手数料	2,904	2.3%	2,708	2.2%	107.2%
減価償却費	2,403	1.9%	2,627	2.2%	91.5%
その他	6,822	5.4%	6,825	5.6%	100.0%
営業利益	6,031	4.7%	5,476	4.5%	110.1%
経常利益	6,013	4.7%	5,787	4.8%	103.9%
当期純利益	2,523	2.0%	3,292	2.7%	76.6%
1株当たり純利益	32.37円		47.43円		68.2%

3Q事業別業績概況

【期間：2011年1月1日～2011年3月31日】

(単位：百万円)

	当3Q		前3Q		前期比
	金額	構成比	金額	構成比	
リテール事業	122,334	96.3%	116,710	96.0%	104.8%
家電製品	14,399	11.3%	13,522	11.1%	106.5%
日用雑貨品	26,999	21.3%	24,640	20.3%	109.6%
食品	37,614	29.6%	35,375	29.1%	106.3%
時計・ファッション用品	26,180	20.6%	27,125	22.3%	96.5%
スポーツ・レジャー用品	6,224	4.9%	5,563	4.6%	111.9%
DIY用品	4,357	3.4%	4,019	3.3%	108.4%
海外	3,890	3.1%	4,382	3.6%	88.8%
その他商品	2,671	2.1%	2,084	1.7%	128.2%
テナント賃貸事業	3,687	2.9%	3,872	3.2%	95.2%
その他事業	984	0.8%	992	0.8%	99.2%
合計	127,005	100.0%	121,574	100.0%	104.5%

※当期より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「同 運用指針」を適用し、報告セグメントを「リテール事業」と「テナント賃貸事業」としております。なお、前期実績は当期基準に置き替えたものであります。

当期出店状況

フォーマット別店舗数

	2009年 6月末	2010年 6月末	2011年6月期		
			1Q	2Q	3Q
ドン・キホーテ	117	126	155 ^{※1}	157	157
パウ	23	23			
ピカソ	11	11			
MEGA	20	27	35 ^{※2}	39	39
海外(ハワイ)	4	4	4	4	3
ドイツ	11	12	13	15	15
長崎屋	31	17	13	10	9
ビッグワン	1	—	—	—	—
ダブルアール	—	—	1	1	—

法人別店舗数

ドン・キホーテ	150	162	161	164	164
長崎屋	46	42	42	42	41
ドイツ	12	12	13	15	15
DQUSA	4	4	4	4	3
ビッグワン	6	—	—	—	—
ダブルアール	—	—	1	1	—
合計	218	220	221	226	223

※1. 店舗業態コンセプトが共通の「ドン・キホーテ」、「パウ」、「ピカソ」は、「ドン・キホーテ」店に集約表記しております。

※2. (株)長崎屋が運営する業態転換店は、すべて「MEGA」店として表記し直しております。

※3. 上記の他に、事業効率の見直しにより6店舗を閉鎖しております。

7月
MEGAドン・キホーテ
苫小牧店
ドン・キホーテ
等々力店

8月
MEGAドン・キホーテ
ラパーク宇都宮店
ドイツ
仙台若林店

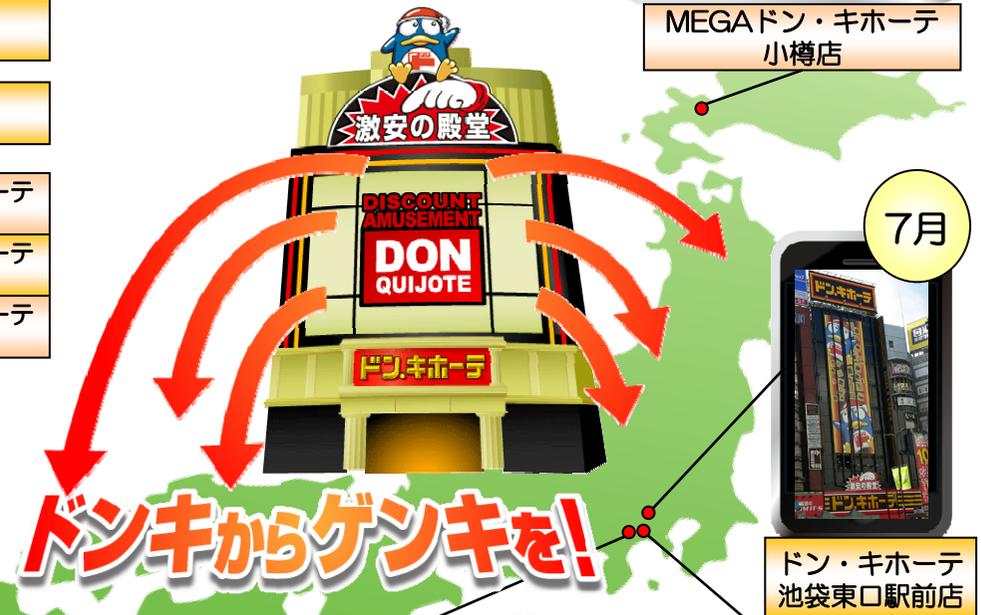
10月
ドン・キホーテ
大宮東口店

11月
MEGAドン・キホーテ
室蘭中島店
MEGAドン・キホーテ
草加店
MEGAドン・キホーテ
蓮田店

11月
MEGAドン・キホーテ
ラパークいわき店
ドン・キホーテ
荻窪駅前店
MEGAドン・キホーテ
八戸店



MEGAドン・キホーテ
小樽店



ドンキからゲンキを!



ドン・キホーテ
池袋東口駅前店



MEGAドン・キホーテ
二俣川店



ドイツ
相模原本店

当期ハイライト

既存店は収益力強化策に注力しながら、商圈内シェアを拡大中！！
当3Q末までの新規出店はDQ4店、MEGA1店、ドイト3店、WR1店の計9店。
長崎屋はトライ&エラーを繰り返しながらも7店をMEGA転換。

	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q
D Q	池袋東口駅前 等々力	荻窪駅前 大宮東口 草加		高槻 柳ヶ瀬 神戸本店 宇治
長崎屋 (業態転換)	苫小牧 宇都宮 二俣川	蓮田 室蘭中島 八戸	小樽	岸和田
ドイト	仙台若林	ラパークいわき 相模原		
WR	WR 岸和田			

会員制ホールセールクラブ
の実験開始（1月4日付で閉鎖）

（株）フィデックへの
経営支援発表

CBの
繰上償還

ハイブリッド型
MEGA店開店

（株）フィデックの
増資引受
（連結子会社化）

SB250億円
発行

New MEGA店
開店

大型店
開店

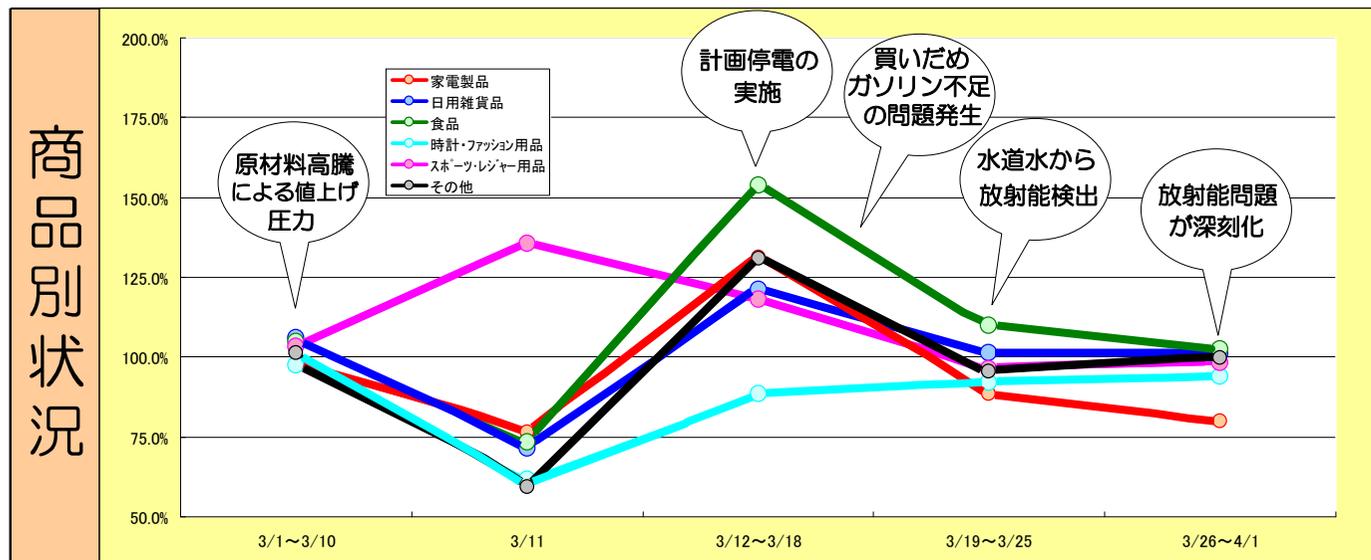
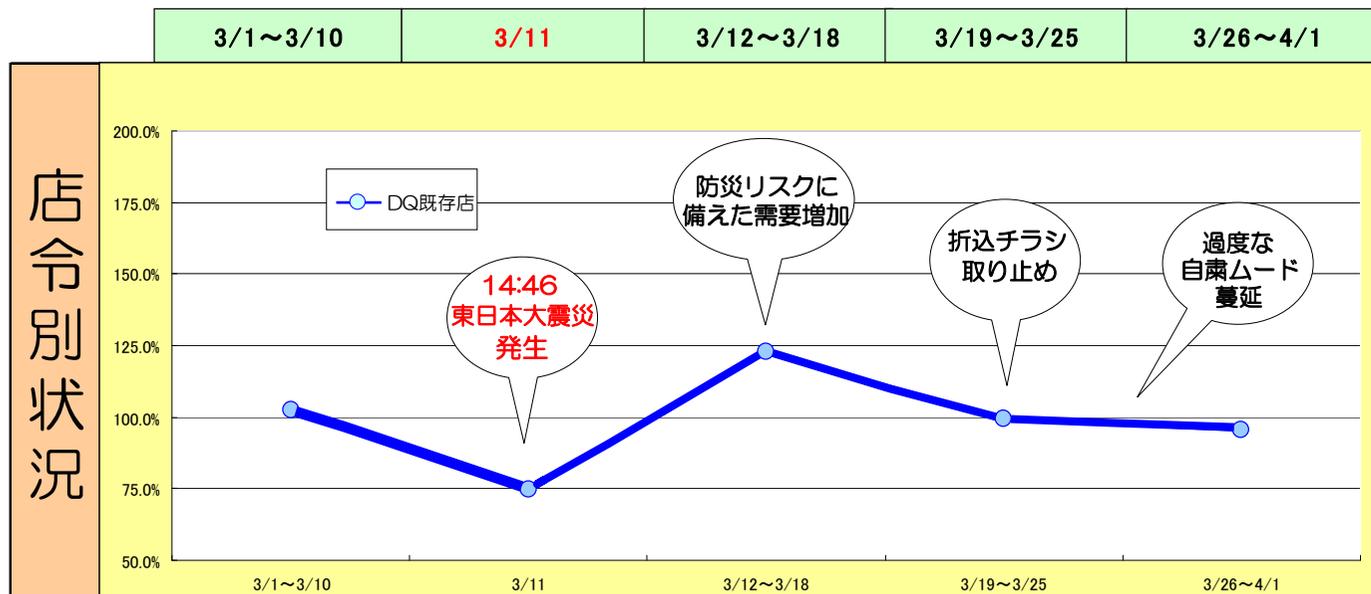
■ = 新店

■ = MEGA

■ = ドイト

■ = WR

東日本大震災 3月度の状況



3 月度における大震災直前までのDQ既存店は**2.6%増**で従前と同程度の進捗状況。

震 災当日は、全223店中65店が被災により営業休止措置を講じる。DQは**25.4%減**。

大 震災の発生は、SCM（サプライチェーン・マネジメント）システムを大混乱に陥らせたため、**毎日・毎時が「スポット対応」**を余儀なくされる状況。

商 品調達や物流維持と店舗営業体制の早期復旧などに当社グループの潜在力は遺憾なく発揮され、**お客さまの期待に確実に応え**できたものと確信。

営 業休止店など被災店を除外せずに計算した既存店実績**DQ4.2%増、長崎屋2.8%増、ドイト5.2%増**と、各社ともお客さまの笑顔に感謝。

東日本大震災の影響と今後の方針

大震災発生

3/11 (金) 65店

東北・関東地方を中心に、グループ
223店舗中65店舗が営業休止措置



復旧へ

3/12 (土) 14店

3/13 (日) 11店

3/14 (月) 8店

3/18 (金) 6店

3/23 (水) 5店

4/11 (月) 2店

5/27 (予) 1店

復興支援を

見
通
し

- ・08年秋（リーマンショック・世界同時不況）以降の消費動向に類似(?)
- ・生活必需品需要が増加見込み

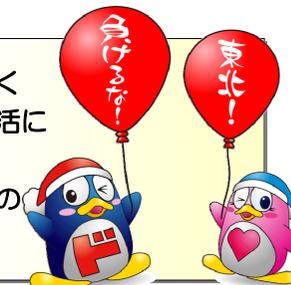
課
題

「商品調達力」と「価格提案力」

心
構
え

「冷静な対応」 > 過剰~~反応~~

穏やかでありふれた日常を一刻も早く
取り戻せるために、私たちは社会生活に
対する重要なインフラであるという
認識の下、使命感をもってお客さまの
お役にたてるよう努めてまいります



New MEGAデビュー

「生鮮食品」と「ミセスアパレル」の品揃えを抑制した店舗面積1,000坪級のMEGA新タイプ店。
店舗運営の効率性を高めて、地域特性や立地環境に合わせた柔軟な出店政策を推進予定。

MEGAドン・キホーテ 神戸本店



約6万アイテムの商品を豊富に取り揃えております！

営業時間：24 時間営業
所在地：兵庫県神戸市中央区脇浜町3-2-23
交通：阪神電鉄本線「春日野道」駅より徒歩約5分、阪急神戸線「春日野道」駅より徒歩約15分
敷地面積：4,354.2㎡
延床面積：7,537.7㎡
売場面積：3,333.0㎡
駐車台数：125台



MEGAドン・キホーテ 宇治店



**「驚安」をコンセプトにお客様に
ワクワク・ドキドキをお届けします！**

営業時間：午前10：00～翌午前5：00（予定）
所在地：京都府宇治市伊勢田町浮面60
交通：近鉄京都線「伊勢田」駅より徒歩約25分、JR「小倉」駅より徒歩約30分
敷地面積：5,778.9㎡
延床面積：4,021.6㎡
売場面積：3,109.0㎡
駐車台数：130台

情熱価格パワーアップ

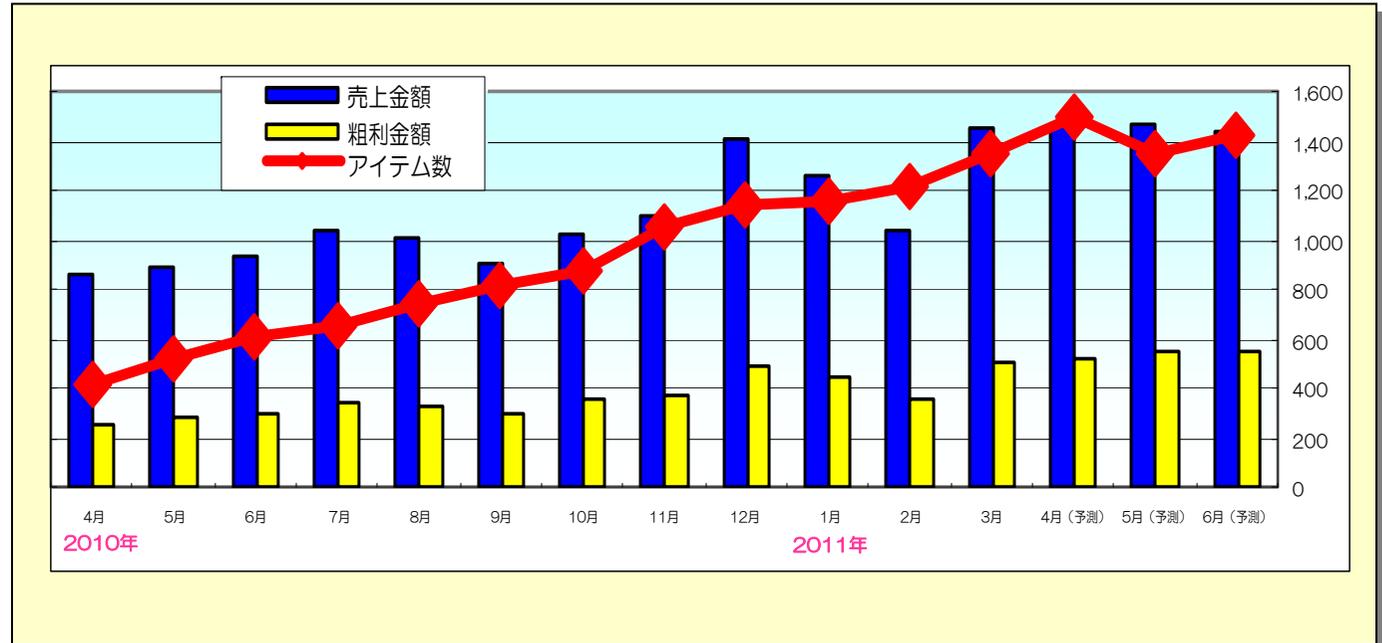
＜ 売れ筋商品ランキング ＞

2010年4月～2011年3月 PBヒット商品番付表

横綱	アツアツご飯
大関	単3形アルカリ乾電池4P
関脇	メンズ5足組ロングソックス
小結	16型地デジ液晶テレビ
前頭	マイクロファイバースタット
同	ストライプラグ150×150
同	ストライプラグ185×185
同	24型DVD内蔵LED液晶テレビ
同	ジャンボバスタオル 2P
同	カウチソファークラック

＜ 情熱価格商品販売状況推移 ＞

金額 (百万円)
アイテム数 (点)



＜ 情熱価格商品ラインナップ ＞



当期の施策と個別業績予想

お客さま満足を最大化するため、旬のニーズに適應した付加価値商品の販売促進に注力。

1. グループ：事業効率のさらなる改善を進め、お客さま支持率の高い店舗運営を促進
2. 営業方針：個店毎の商圏内競争力を強化し、既存店の収益力を拡大
多店舗化に向けたMEGA業態の収益基盤を確立
訪日外国人の取り込み強化
3. 商品戦略：消費マインドの変化に迅速に対応した商品ポートフォリオの提案
生活必需品の品揃え強化と徹底したEDLPの推進
PB「情熱価格」ラインナップの拡充（新機能・こだわり商品など）
4. 店舗戦略：設備投資額400億円（当初予想からの増加物件のうち6月下旬に「日本一の激戦地」及び「GMS居抜き跡」にそれぞれ新規出店を予定）
新規出店15店（閉鎖7店（うち2店は業態変更））長崎屋からMEGAへの転換9店＋再改装数店
DQ既存店の予想：4Q＝1.0%増、通期＝2.5%増
5. 財務戦略：バランスシートの改善と資金効率の向上
「災害損失」追加計上の可能性はあるが、増収効果で吸収予定
長崎屋決算期を6月期に変更（従来は4月期）
年間配当金予想は25円

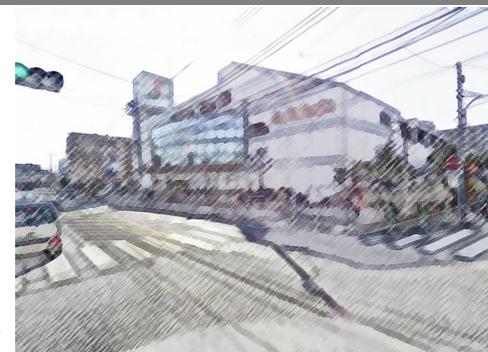


日本一の激戦地に。

1次オープン：約260坪

2次オープン：約660坪（2012年春）

6月下旬オープン予定！



GMS居抜き跡に。

核テナント＝ドイト約1900坪

通期の連結業績予想

(単位：百万円)

	通期予想			前回予想		前期実績	
	金額	百分比	前期比	金額	百分比	金額	百分比
売上高	500,000	100.0%	102.5%	500,000	100.0%	487,571	100.0%
売上総利益	128,000	25.6%	103.6%	128,000	25.6%	123,506	25.3%
販管費	103,500	20.7%	101.0%	103,500	20.7%	102,439	21.0%
営業利益	24,500	4.9%	116.3%	24,500	4.9%	21,067	4.3%
経常利益	23,500	4.7%	111.3%	23,500	4.7%	21,109	4.3%
当期純利益	12,500	2.5%	122.1%	12,500	2.5%	10,238	2.1%
1株当たり純利益	162.42円	—	110.4%	162.65円	—	147.35円	—
設備投資額	40,000	—	175.1%	30,000	—	22,849	—
減価償却費	9,500	1.9%	101.4%	10,000	2.0%	9,372	1.9%



「顧客最優先主義」と「企業価値の拡大」を追求し、
引き続き増収増益決算を目指します。

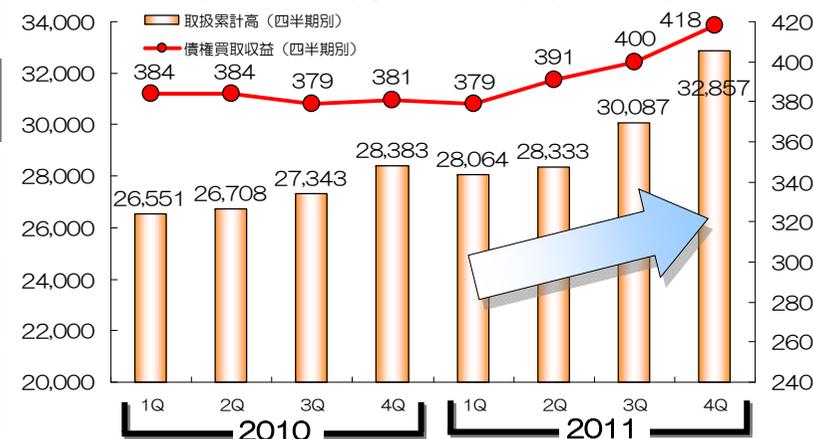
フィデック決算業績

(単位：百万円)

【PL概況】	2011年3月期			2010年3月期		
	金額	百分比	前期比	金額	百分比	
取扱累計高	119,341	—	109.5%	108,986	—	
営業収益	2,223	100.0%	109.6%	2,028	100.0%	
債権買取収益	1,588	71.4%	103.9%	1,528	75.3%	
業務受託収益	634	28.5%	137.6%	461	22.7%	
その他収益	1	0.1%	1.5%	39	2.0%	
金融費用	339	15.2%	89.6%	378	18.6%	
販売管理費	1,553	69.9%	98.6%	1,576	77.7%	
営業利益	331	14.9%	446.1%	74	3.7%	
経常利益	358	16.1%	317.0%	113	5.6%	
当期純利益	▲2,322	▲104.5%	—	▲3,394	▲167.3%	

【BS概況】	2011年3月期		2010年3月期	
	金額	前期比	金額	前期比
総資産	16,921	91.0%	18,591	
負債	15,624	92.1%	16,969	
純資産	1,297	80.0%	1,622	

【取扱累計高及び債権買取収益】



懸案のBSは増資などにより財務基盤が安定へ。

PLは取扱累計高・債権買取収益とも
順調に増加しており、収益力は上昇中。

本日はありがとうございました。



IRに関するお問い合わせ先

株式会社ドン・キホーテ 経営企画部

〒153-0042 東京都目黒区青葉台2-19-10

TEL：03-5725-7588 FAX：03-5725-7024

e-mail：ir@donki.co.jp

IRカレンダー

第31期（2011年6月期）決算発表（予定）

決算発表日：2011年8月18日（木）

説明会会場：東京証券会館 9階 （東京都中央区日本橋茅場町 一丁目5番8号）

将来見通しに関する注意事項

本資料におきましては、投資家の皆さまへの情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆さまがいかなる目的にご利用される場合においても、お客さまご自身の判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

株式会社
ドン.キホーテ
Don Quijote Co.,Ltd.